

# 調査研究報告書

## 都市化と寿命の関係に関する研究

### —東京都と大阪府の比較を中心に—

研究機関	東京都文京区本郷7-3-1 保健医療社会学研究会 東京大学医学部保健社会学教室内 代表 園田 恭一
研究委員会	同都市化・保健医療・寿命研究委員会
研究委員	佐久間 淳（埼玉県立衛生短期大学教授） 園田 恭一（東京大学医学部教授） 芦沢 正見（日本赤十字大学看護学部教授） 姉崎 正平（日本大学医学部教授） 米林 喜男（順天堂大学医学部助教授） 古谷野 亘（桃山学院大学社会学部助教授） 宗像 恒次（国立精神保健研究所比較精神文化室長） 山崎喜比古（東京大学医学部助手） 会田 敬志（東京大学医学部保健社会学教室） 佐藤 林正（東京大学医学部保健社会学教室） 柴田 博（東京都老人総合研究所疫学第二研究室長） 芳賀 博（東京都老人総合研究所疫学第二研究室研究員）

財団法人 地域社会研究所

# 第一篇 都市化と平均寿命の関係に関する研究 — 東京都と大阪府の比較を中心に —

佐久間 淳

## I. まえがき

1985年におけるわが国の平均寿命は、男性が74.95年、女性が80.75年でともに世界の最高水準を占めている。しかし、これを都道府県別にみても、男女とも沖縄県が最も長く、男性で一番短い青森県の73.05年と比べると3.29年の差がある。また女性で一番短命な大阪府の79.84年との間には、3.86年の差が見られる。

このような差は都市化の進んだ東京都内や大阪府内においても見られており、1985年における東京都23区と都下26市の中で男性では最長の小金井市の76.97年に対して、最短の荒川区の72.22年とでは4.75年の差が認められる。

そこで、このような差が何に起因しているのか、明らかにすることが必要になってくる。これらの原因が明らかになれば、次にはその除去ないしは改善の方法を明らかにすることが求められてくるであろう。こうした視点から平均寿命の要因とその地域比較分析を考えたわけである。なお、この研究は財団法人地域社会研究所の助成金を受けて、保健・医療社会学研究会が1986年と87年の両年度にわたり行ったものである。